

若者の手で農業を
盛り上げよう！吉永 昇平さん
Syohei Yoshinaga

農業との出会い

今回紹介する吉永昇平さんは、農業で自立をめざす元氣な若者。昨年大学を卒業し、現在は、国府町の農業生産法人『アグリ・フロンティア』で研修中です。

熊本県水俣市出身の吉永さんは、環境に関心を持ち、鳥取環境大学に進学。公害について学んだ後、地元に戻るつもりでした。

そんな吉永さんの気持ちが大きく変わったのは、大学2年生の夏休みに北海道で経験したインターンシップでの農業体験。1カ月間の現場での

体験が、吉永さんの心を大きく動かししました。最初の2週間は体力的につらいことばかりでしたが、後半はそれにも慣れ、「自然の中で、みんなでワイワイできる農業って楽しい」と思えるようになりました。そしてこの時「俺、農業しよう！」と決意しました。

大学3年生のときには、知り合いから田んぼ、農機具を借り、初めて米作りに挑戦しました。最初に作った米は、手がけた田んぼの規模が小さかったこともあって、上々の出来。気分を良くして次の年も挑戦しましたが、収穫を1

農業生産法人
アグリ・フロンティア
研修生

週間後に控えた大切な時期に、イノシシの被害にあってしまい、収穫はゼロ。苦労して作った米が一瞬にしてなくなっってしまった、吉永さんは何かなんだか分からず、しばらく放心状態で田んぼを眺めていました。「でも今になって思えば、この経験がよかったんです。この時成功していたら、本当のつらさや厳しさを全く知らないまま農業を始めていたと思います」こんなつらい経験が、吉永さんの農業に対する思いを逆に強め、確固たるものへと変えていったようです。

就職活動中に、鳥取市で農

業を新たに始めようとする若者の支援を行う計画がある、ということを知り、自分の力で鳥取の農業を盛り上げてやろう！と就農を決心しました。

**「お前ならやれる」
の言葉を励みに**

しかし、農業で生計を立てるのは容易ではありません。吉永さんは「自分は小規模農家をめざしたい。農村に住み、地域の伝統文化を大事にする農業をしたい」と思っている。でも、産業として国際社会で勝ち抜いていくことを考えると、日本の農業は大規模農業をめ